

(単位：千円)

ストーリー名(仮称)	事業名称	趣旨及び目的	申請団体	実施内容・事業額	事業効果及び成果指標
大阪を駆け抜けろ！ 泉州サイクルートでめぐるたび	泉州サイクルート事業	関西国際空港のお膝元である泉州地域は、歴史・文化・食・ものづくりのいずれも高いポテンシャルを持った地域であるとともに、我が国最大の自転車製品の生産地である堺市をはじめ、各市町村が独自に自転車を活用したまちづくりを早期から進めている。 近年は、閑空を利用するインバウンド客が順調に増加しており、特に台湾や欧米などにおいて、自転車ツーリングを目的とした日本への個人旅行者も増加している。これらのインバウンド客をはじめとする誘客を図るため、泉州地域の資源のうち、特にインバウンド客が興味を持っている「食」と「体験」をテーマとした資源を自転車で巡るための環境を整備し、ツーリング環境の向上に取り組む。	(一社) K I X 泉州ツーリズムビューロー (旧泉州観光プロモーション推進協議会)	<p>▶ 和泉西国三十三ヶ所観音霊場への巡礼サイン(多言語対応)の設置(4,024)</p> <p>▶ ルート上にある飲食店と連携した割引クーポンの発行(アプリ開発)(2,750)</p> <p>▶ サイクリストからの投稿サイト等の開設(ホームページ改修)(50)</p>	<p>&lt;事業効果&gt; 泉州サイクルートを活用して泉州地域の点在する観光資源をつなげることで、単に観光資源と自転車のアピールにつながるだけでなく、同時に観光資源を結び移動手段の課題解消も図れる。それらの効果を、閑空を利用するインバウンド客や国内旅行者の増加、自転車の町・地域としてのブランドの育成につなげる。</p> <p>&lt;成果指標&gt; ・御朱印発行数(初年度 1,600件 ⇒ 以降10%増) ・アプリダウンロード数(初年度 5,000件) ・クーポン使用数(初年度 1,000件 ⇒ 以降10%増) ・PRサイトへの投稿数(初年度 800件 ⇒ 以降5%増)</p>
アートを感じる・見つける ぶらりまちあるき	パブリックアート制作事業	「和泉市観光振興戦略プラン」において和泉市久保惣記念美術館を中心とした半径2kmのエリアを「ミュージアムタウン」として設定している。当エリアは久保惣記念美術館のほか、いずみの国歴史館、和泉リサイクル環境公園、松尾寺などの観光スポットに加え、桃山学院大学が立地し、カフェ・レストランの集積する地域でもある。 美術館と連携したフォトスポットとなるパブリックアートの設置、美術館ホームページの多言語化及び積極的な情報発信を実施することで、インバウンドを含めた観光誘客を促進する。	和泉市	<p>▶ パブリックアート制作(24,000)</p>	<p>&lt;事業効果&gt; 複合的な魅力の創出と情報発信により、インバウンドを含めた来訪者の増加につなげる。</p> <p>&lt;成果指標&gt; ・エリア内主要観光施設観光客数(H28 401,111人⇒H31 572,400人) ・美術館年間来場者数 H28 28,265人⇒H31 29,000人) ・ミュージアムタウンWebサイト閲覧者数(現状0⇒H31 12,000人)</p>
古(いにしえ)の空気に包まれる にっぽん心のたび	楠公史跡PR事業	楠公さんと親しまれている楠木正成・正行親子は、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて彗星の如くあらわれ、やがて時代の流れに消えていった。彼らが歴史上、名を残したのは、僅かな歳月であったが、その生き様は逸話として後世に伝わり、そして今でもサムライヒーローとして、日本人の心を魅了し続けている。 聖地となっている彼らにまつわる有形・無形の文化遺産を磨き上げ、広域的にストーリーで結ぶことにより、観光資源としての魅力を向上させる。 千早赤阪村や河内長野市には数多くの楠公史跡が存在することから連携による統一的なPRやツアーコースを提案することにより、楠公の魅力と自然豊かな奥河内の魅力を共に発信し、外国人を含めた観光客の増加を図り、地域産業の活性化につなげる。	河内長野市	<p>▶ 解説・案内板の設置(659)</p>	<p>&lt;事業効果&gt; 他自治体との連携による統一したPRを実施することにより、新たな楠公魅力を発信し、来訪者の増加と観光ツアーの事業化につなげる。</p> <p>&lt;成果指標&gt; ・市内観光施設利用者数(H28 99万人⇒H32 108万人) ・観心寺、金剛寺の年間拝観者数(H28 20万人⇒H32 30万人)</p>
百舌鳥・古市古墳群をめぐるとび	百舌鳥・古市古墳群受入体制整備等事業	大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市においては、百舌鳥・古市古墳群の2019年の世界文化遺産登録を目指している。 百舌鳥・古市古墳群は、大阪の南部の堺市、羽曳野市、藤井寺市の3市に所在する巨大古墳群であり、堺市の「百舌鳥」と、羽曳野・藤井寺市の「古市」の2つのエリアに分かれながらも、一体性・連続性をもっている。 この古墳群では、4世紀後半から6世紀前半にかけて200基を超える古墳が築造されたが、現在でも89基の古墳が残っている。その中から古墳時代の最盛期である古墳時代中期(4世紀後半～5世紀後半)に築造され、なおかつ保存状態の良好である49基45件を世界遺産推薦候補としている。 ここに密集した古墳は、前方後円墳、帆立貝形墳、円墳、方墳という4種類の墳形をもち、規模も400m以上から20m程度まで著しく幅広い。これらのうち大規模な古墳は、鍵穴形の前方後円墳であり、古代日本の王の墓と考えられる列島最大級のものも多数含む。このような王墓が集中的、継続的に築造された両エリアは、列島各地の古墳の型式と築造技術のモデルとして重要な位置を占め続けた。 今後、登録を契機に増加する来訪者に、これらの古墳群の価値を理解していただくとともに、効率的・効果的に受け入れていくための、受入体制整備事業や来訪者にそれぞれの街の魅力を感じていただけるような魅力発信事業を実施する。	堺市	<p>▶ 誘導サイン(多言語対応)の設置(34,134)</p>	<p>&lt;事業効果&gt; 古墳群めぐりの周遊ルート整備による古墳群来訪者の拡大等</p> <p>&lt;成果指標&gt; ・仁徳天皇陵古墳来訪者数(集計実施月の平均人数(土日祝) H29 5,252人 ⇒ H32 6,302人)</p>
			羽曳野市	<p>▶ 案内看板等(多言語対応)の設置(7,850)</p> <p>▶ 白鳥ドローンの製作(1,080)</p>	<p>&lt;事業効果&gt; インバウンド等来阪旅行者の拡大</p> <p>&lt;成果指標&gt; ・古市駅東広場観光案内所 来場者数(H29 3,575人 ⇒ H33 50,000人)</p>
			藤井寺市地域文化遺産活性化実行委員会	<p>▶ 藤の森古墳石室の移築展示(4,800)</p> <p>▶ 出土遺物展示ケース購入(1,700)</p> <p>▶ 解説板(多言語対応)の整備(4,500)</p>	<p>&lt;事業効果&gt; 自然、歴史を満喫できる大阪の魅力をPRすることで、インバウンドを含めた来訪者の増加やおもてなしの機運の醸成に繋げる。</p> <p>&lt;成果指標&gt; ・津堂城山古墳ガイダンス棟「まほらしるやま」来館者数(H29 16,003人⇒ H31 20,000人) ・藤井寺まちかど情報館「ゆめぶらざ」来館者数(H29 10,718人 ⇒ H31 12,000人)</p>
<b>合 計</b>				<p>(事業費ベース) 85,547 (補助金ベース) 35,706 (府予算額) 42,000</p>	